

2020年9月15日

各位

会社名 株式会社小僧寿し  
 代表者名 代表取締役社長 小林 剛  
 (JASDAQコード: 9973)  
 問合せ先 経営企画部室長 毛利 謙久  
 (TEL. 03-4586-1122)

**連結業績予想の修正に関するお知らせ**

最近の業績動向を踏まえ、2020年2月19日に公表いたしました業績予想を、下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 2020年12月期通期連結業績予想の修正 (2020年1月1日 ~ 2020年12月31日)

(単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	6,946	36	56	26	0円19銭
今回発表予想 (B)	6,258	59	56	38	0円33銭
増減額 (B-A)	△688	23	0	12	—
増減率 (%)	△9.9%	63.9%	0.0%	46.2%	—
(ご参考) 前期連結業績 (2019年12月期 通期)	5,804	△195	△217	△116	△2円49銭

2. 修正の理由

当連結累計期間の業績におきまして、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、連結子会社である株式会社スパイシークリエイト (以下「スパイシークリエイト」) において、レストラン事業を中心とした大幅な集客及び売上高の減少により、店舗の臨時休業期間を設けるなどの影響が生じ、当初予定を下回る売上高となりました。また、連結子会社である株式会社デリズにおいては、2020年12月期に直営店を10店舗出店する計画であり、2020年4月から9月にかけて6店舗の出店を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、既存店の営業が多忙になった点、及び施工業者の手配が出来なかった点により、実績として5月および9月に各1店舗の計2店舗の出店となりました。当初の出店計画においては、2020年10月以降に直営店4店舗の出店を予定しておりましたので、当該出店に加え、計画の遅滞により出店に至っていない残り4店舗の直営店の出店については、11月から12月にかけての出店を予定しております。そのため、出店計画が後ろ倒しになっておりますので、売上高は当初計画を下回る予想であります。

スパイシークリエイトにおいて、大幅な売上高の減退に伴う営業利益の減少が生じる一方で、持ち帰り寿し事業の「小僧寿し」及び、デリバリー事業の「デリズ」の既存店においては、当初計画していた、売上高前年比率105%を上回る推移で堅調に推移したため、当初計画以上の収益性を確保しております。また一方で、2020年8月19日付「当社連結子会社である株式会社デリズによる、株式会社JFLAホールディングスとのエリアフランチャイズ契約の締結に関するお知らせ」にてお知らせのとおり、エリアフランチャイズ契約の契約金、出店時の加盟金等の収益として、32百万円超の利益創出を見込んでおります。上記の増益要因が、スパイシークリエイトの減益要因を上回る事から、営業利益におきましては、当初計画を上回る業績予想へと修正

いたしました。

経常利益におきましては、営業利益の増加による増益要因が生じるものの、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、株式会社小僧寿しで契約している物件の転貸契約について、貸与しているテナントより、予定外の解約等が生じているため、当初計画を下回る営業外収益となることを予想しております。

親会社株主に帰属する当期純利益におきましては、営業利益の増加により、当初計画を上回る業績予想へと修正いたしました。

当該業績予想におきましては、新型コロナウイルス感染症の終息に対して、未だ見通しが立たない状況下にある事から、スパイシークリエイトの現在の業況に大きな進展が無く、また、持ち帰り寿し事業の「小僧寿し」及び、デリバリー事業の「デリズ」において、当初計画していた、売上高前年比率 105%の水準で推移する事を想定するなど、本日現在の業況から比較し、保守的な見通しを含んでおります。

しかしながら、スパイシークリエイトの減益要因を上回る増益要因が生じたことにより、営業利益及び親会社株主に帰属する当期純利益において、前回発表予想から超過する見通しが立ちましたので、当該業績予想値へと修正を行うものであります。

以上